



# α・ベース ver. II



## α・ベースとは・・・

「都市に本物の緑を育て、鳥や昆虫を連れ戻すことができれば・・・」  
α・ベースはそんな思いを実現するために開発されました。  
重さは自然土の1/3、水もちは3倍（pF1.8～3.0）、しかも透水係数はなんと約100倍です。そして触っても、土のようにこねたり固まったりしません。  
自然土のよい部分だけを引き出し、欠点を補いました。厳しい条件が求められる屋上緑化になくてもならないもの・・・  
それがα・ベースです。

### ■ α・ベース性能表

湿潤時の比重 (kg/ℓ)	0.57	
三相分布 (%)	固相	11.
	液相	31.2
	気相	57.0
透水係数 (cm/sec)	1.7 × 10 <sup>-2</sup>	
有効水分保持量 pF1.8～3.0 (ℓ/ℓ)	172.5	
pH (H <sub>2</sub> O)	7.2	
塩基置換容量 (cmol/kg)	4.4	

### ■ 製品仕様

容量 (ℓ/入)	重量 (kg)	容器
100	約26	ポリエチレン袋

注) α・ベースのポリウムは歩留り、余盛りを含め1.2倍必要です。

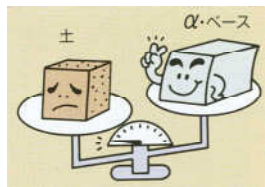
## 土の1/3の軽さで荷重制限をクリア

α・ベースの比重は土の約1/3です。貯排水のシステム組合せにより、H=3mの高木用植栽基盤が180kg/㎡以下で造成可能になります。全体の許容荷重を考慮すれば、かなり自由な植栽が可能です。

建築基準法による積載荷重

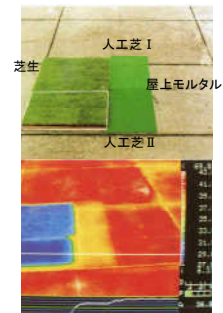
階層	用途	積載荷重 (kg/㎡)
中層	一般住宅床	180
	事務室、教室、百貨店、劇場	230～300
	劇場、公会堂等	360
屋上	一般屋上広場	180
	学校、百貨店	300
	污水处理場	1500

(単位kg/㎡)



## 焼け込み防止効果で地球温暖化防止に貢献

保水力の高いα・ベースは、水分が気化することにより多くの潜熱を奪い、冷却効果が生まれます。このことが直接的にはコンクリートの熱放射を防止し、ヒートアイランド現象を防止するとともに、間接的には室内の冷房費をカット。植物による冷却効果に加え、土壌自体が、省エネ、地球の温暖化防止に貢献します。

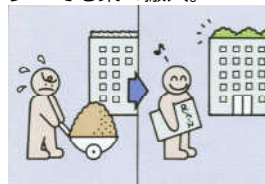


色で見る遠熱効果 (サーモグラフィ)

東京工業大学 梅干野研究室 提供 ((株)香椎造園 協力)

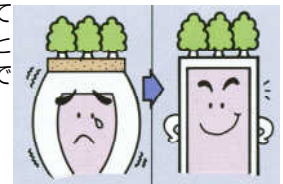
## 工期を1/2～1/3に短縮

自然土を使用すると必ずレッカーによる荷上げ作業が必要です。また、周囲に土を散乱させ後処理も大変でした。α・ベースならエレベーターでも楽々搬入。都市での夜間通行止めも必要ありません。楽々作業で工期は1/2～1/3に短縮できます。また、既存ビルの少量需要には宅急便で現場にも届けられます。



## トータルコストを低減

軽量土のため、梁・柱が細くてすみ、トータルコストの低減と空間も有効に利用することができます。



### <取り扱い注意事項>

- ・軽い材質のため、風による飛散にご注意下さい。
- ・α・ベース仕上がり表面は、貼り芝、マルチングにより飛散を防止して下さい。
- ・商品が目に入った場合は、水で洗い流して下さい。